

2016年12月6日 東大駒場

鈴木裕子

- 1 タイトルについて  
なぜ「日本軍」を割愛されたのか。
- 2 ユン・ジョンオク氏による「日本軍＜慰安婦＞問題」の社会的争点化  
～基本的視座と、社会的争点化までの道のり
- 3 韓国民主化闘争の進展と女性運動
  - ・教会女性連合会の功績  
李愚貞教授の捨て身の抵抗運動の指導のもとで、教女連は発展  
70年代における「キーセン観光」反対運動と原爆被害者問題に奔走
  - ・女性団体連合の結成と活動家の輩出  
韓国社会学・女性学のパイオニア李効再教授の指導のもとに多数の活動家が誕生（韓明淑・池銀姫・李美卿氏ら）
- 4 責任者処罰の提起と、日本の女性国会議員らによる「生活支援民間基金構想」
  - ・第二回アジア連帯会議（日本、1993年）における李美卿総務による提案とその背景
  - ・「生活支援民間基金」構想について
- 5 村山三党連立内閣と「国民基金」（アジア女性基金）の創立と反対運動
- 6 日本における「国民基金」反対運動の展開  
PCA連絡会と「つぶせ『国民基金』実行委員会を主に、被害各国・地域の支援者団体との共闘
- 7 「国民基金」政策の失敗
  - ・多くの被害者、支援団体が受け入れたとはいえ、失敗といえる
  - ・当初、20億円の募金を設定していたものの、5億6500万円に終わる
  - ・事務人件運営等にかかる国庫金 35億5000万円
  - ・支払金を前に、新たに医療福祉金 11億2600万円
    - \* 「国家賠償」を回避して、第三者機関を通しての支払い

## 8 挺身隊問題対策協議会批判とユン・ジョンオク氏への批判をめぐって

【参考文献】限られた時間なので、日本軍「慰安婦」問題に関する拙著・拙編著の参考文献を付しました。

- ・1980年代後半から90年代初頭に「ふえみん」「毎日新聞」「朝日新聞」他、雑誌『世界』に論考を発表（その多くは、拙著に収録）。
- ・『朝鮮人従軍慰安婦』岩波ブックレット、1991年
- ・『従軍慰安婦・内鮮結婚』未来社、1992年
- ・『「従軍慰安婦」問題と性暴力』未来社、1993年
- ・『フェミニズムと朝鮮』明石書店、1994年
- ・『女性史を拓く4 戦後責任と「慰安婦」問題』未来社、1996年
- ・『戦争責任とジェンダー』未来社、1997年
- ・『天皇制・「慰安婦」・フェミニズム』インパクト出版会、2002年
- ・『フェミニズム・天皇制・歴史認識』インパクト出版会、2006年
- ・ユン・ジョンオク著、編解説注釈『平和を希求して 「慰安婦」被害者の尊厳回復へのあゆみ』白澤社、2003年
- ・責任編集『ジェンダーの視点からみる日韓近現代史』梨の木舎、2005年
- ・鈴木裕子・山下英愛・外村大編解説『日本軍「慰安婦」関係資料集成』上下、明石書店、2006年
- ・『資料集 日本軍「慰安婦」問題と「国民基金」』梨の木舎、2013年